

(様式 1)

令和 4 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立豎川中学校
校長名	織部 明広

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<p>○第 1 学年は、全国平均正答率より 国語総合が 3.9 P、数学総合 10.6 P、 理科総合 5.2 P、英語総合 8.8 P 上回っている。</p> <p>○第 2 学年は、全国平均正答率より 国語総合 5.2 P、社会総合 2.7 P 数学総合 10.5 P、理科総合 0.1 P 英語総合 10.4 P 上回っている。全教科で全国 平均正答率を上回っている。</p> <p>特に、第 2 学年の数学の経年変化での全国平均 正答率との比較より、数学が昨年度より、 6.2 P (全国平均正答率より +10.5P) 上回って いる。</p> <p>○第 3 学年は、全国平均正答率より 国語総合 2.5 P、社会総合 3.3 P、数学総合 10.9 P、英語総合 11.3 P 上回っている。 特に、数学、英語の経年変化での全国平均正答率 との比較より、数学も昨年度より、5.5 P (全 国平均正答率より +10.9P)、同様に英語でも 1 P (全国平均正答率 +11.0P) 上回っている。</p>	<p>●第 1 学年は、<u>社会総合</u>については、-1.6 P 全国平均正答率を下回った。今後、我が国の歴史 領域で<u>単元末テストのやり直しや振り返りシー トを活用し、4.7 P を全国平均値に近づける。</u> また、<u>D 層 48.7% を C 層に 10 名引き上げ 4 0% にしていく。</u></p> <p>●第 2 学年は、<u>理科</u>の観点別正答率では、主体的 に学習に取り組む態度の問題で、2 P 全国平均 正答率より下回っている。<u>単元末テストのやり 直し、振り返りシートを行い「生命の領域」で 5 P、「地球の領域」で 3.6 P 差を全国平均正 答値に引き上げていく。</u>また、C 層に 10 名引 き上げ、<u>E 層をなくし D・E 層 41.6% を D 層 30% 台に止める。</u></p> <p>●第 3 学年は、<u>理科</u>の主体的に学習に取り組む 態度の観点で、全国平均正答率を 8.4 P 下回っ ている。また、<u>D・E 層が 50.8% ととなり 学年の 5 割に達している。主体的に学習に取り 組む態度の観点で既習内容をやり直し、E 層を なくし、D 層より 7 名 C 層への引き上げ、D 層 を 40% 前半に止める。</u></p>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<p>【学習習慣・意欲】についての設問で、 ○第 2 学年では、「学校の授業以外に平日（1 日 1 時間以上）勉強しているか。」については、<u>全 国平均回答率より（79.2%）7.7 P 上回っている。</u> ○設問「1 ヶ月何冊ぐらい本を読みますか？」の 質問に 2 冊以上との回答した生徒が全学年全国</p>	<p>【学習習慣・意欲】についての設問で、 ●第 3 学年では、「学校の授業以外に平日（1 日 1 時間以上）勉強しているか。」の質問では、全 国平均回答より（70.5%）2.6 P、1 年生では、 （71%）1 P 下回っている。<u>学習習慣のため家庭 学習ノートを毎日提出させ、提出率を 90% 以上</u></p>

<p>平均より2P上回っている。このことは、読解力の向上につながっている。</p> <p>○第3学年では、テストでの間違いをやり直ししていますか。の質問に、全国平均より(67%)3P上回る回答であった。</p> <p>【自己肯定感】についての設問</p> <p>○第3学年では、設問「夢中になった勉強が面白いと思った、やる気が出たと記憶に残った授業はありますか」の質問では、全国平均より(75.9%)12.5P上回る回答を得た。</p>	<p>に上げて、<u>家庭学習の習慣化を図る。そのために、前後期のパーフェクト者の表彰を行う。</u></p> <p>●「学校の予習や復習をしていますか」の質問で肯定的回答が第1学年は65%、第2学年は60%、第3学年は62%の回答に止まった。<u>振り返りテスト、単元末テストでの正答率を上げ達成感を味合わせる。</u></p> <p>【生活と学習にかかわるアンケート】</p> <p>●「タブレット端末やパソコンを使って学習」とすると分かりやすいか」の質問に第1学年(83.6%)第2学年(77.4%)第3学年(72.4%)の回答率で学年が進行するに従って増加させていく。そのために、<u>従業展開での効果的な場面でのタブレット端末、プロジェクター等のICT機器の工夫ある活用を推進していく。</u></p>
---	---

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<p>○英語では、少人数制習熟度別クラスによる上位層と中間層、中間層と下位層との学び合い活動により英語においては、「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、<u>全学年で全国平均正答率を4.75P~12.3P上回っている。</u></p> <p>○数学では、第3学年の全国学力調査の結果からも区学力調査結果と同様に、【知識・技能】観点3.2P、【思考・判断・表現】観点3.8P<u>全国平均正答率を上回っている。</u>また、少人数制習熟度別クラスによる学び合い活動により、区学力調査結果での「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、<u>全学年で10P以上全国平均正答率を上回っている。</u></p> <p>○国語では、第3学年の全国学力調査の結果より</p> <p>【知識・技能】観点0.6P、【思考・判断・表現】観点0.2P国平均正答率を下回っているがほぼ全国平均正答率の値と同様である。</p> <p>授業では、全学年においては、タブレット端末の</p>	<p>●第1学年社会では、<u>校内前期中間考查結果からA・B層35%、D層48%あり、区学力調査のA・B層39.3%、D層48.7%であった。</u>区学力調査結果と同様の2極化傾向にある。</p> <p>●第3学年理科では、<u>全国学力調査結果より、</u> 【思考・判断・表現】1.5P全国平均正答率より下回っている。また、校内前期中間考查結果からA・B層39%、D・E層47.8%であった。区学力調査結果もA・B層38.4%、D・E層50.8%で区学力調査と校内定期考查のD・E層を<u>やり直しテスト等による復習を通して、40%弱に</u>していく。</p> <p>●全学年対象に、学習習慣の定着に向けて、<u>教員の働きかけと表彰等で家庭学習ノートの提出率を90%に</u>上げていく。</p> <p>●第3学年での全国学力調査結果より、国語での【思考・判断・表現】観点における(文脈に即した漢字を正しく書く問)11.4%、(場面と描写など結びつけて内容を解釈する問題)14.</p>

<p>ロイノート等、ICT機器の有効活用による分かり安い授業、話し合い活動により、区学力調査全学年の「思考・判断・表現」の観点別正答率が全国平均より上回っている。</p> <p>特に、<u>第1・2学年では経年変化で5P以上上回っている。</u></p>	<p>5%の無回答率を振り返りテスト、やりなおしテスト等を実施し、10%台に押さえていく。</p>
---	---

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 各種コンテスト並びに検定受検への学校全体での組織的取組。

年間を通して、漢字・数学・英文・新聞・地理コンテストの5つのコンテストを行う。教科を越えて、学校として事前学習を行う。また、**第3学年**では、漢字・数学・英語検定を推奨し3検定3級以上のトリプル3合格者を15名以上目指す取組を行う。優秀者を表彰し昨年度からの成長を伝えていくことで学習意欲の向上に努めていく。コンテストの期間だけでなく、日頃から学力が定着するように各教科の授業の中で定期的に振り返り学習を行っていく。

(2) 教員の授業力向上に向けての取組

管理職による定期的な授業観察による指導助言を実施する。また、年2回の教員同士が授業を見合う互見週間をもうけ2教科以上の授業を参観し、良かった点、工夫が必要な点について参観レポートをもとに意見交流の場を設け授業改善に役立てていく。さらに、区外の指導教諭の模範授業の報告会や職員会議後のミニ研修で指導の工夫・評価・評定について管理職より資料提示し、研修を深め教員の授業力と研修意欲を高めていく。

(3) 「主体的で対話的深い学びの評価」のテーマを継続し、PDCAサイクルにより生徒の意欲を向上させ、さらなる指導と評価の一体化に向けた研修

令和4年度も令和2・3年度墨田区教育委員会研究協力校としての研究を継続し、さらなる生徒の意欲を向上させる評価に向けた各教科の観点の評価材料と評価方法を検証していく。そのために、授業を行う際に、どのように生徒の学力向上につなげ、どのように評価すれば生徒の意欲向上につなげられるか、今年度の実績を分析し改善に取り組み「理科」における**第2学年**では2P・**第3学年**では8.4P(主体的に学習に取り組む態度)の観点別平均正答率を全国平均まで引き上げる。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

◇第1学年は、社会総合については、－1.6P全国平均正答率を下回った。特に、【知識・技能】の観点における小学校6年生の範囲での「縄文時代～平安時代」の聖徳大師の政治について、複数の資料をもとにした考察と藤原の道真の政治についての資料に着目して考察し表現、日本風の文化についての理解、「鎌倉・室町時代」室町文化について理解、について振り返りシート・単元末テストのやり直しを宿題等で実施し、身に付けるべき基礎学力を定着させ全国平均正答率値まで引き上げる。また、区学力調査でのD層48.7%を30%台に止め、C層へ10%引き上げ、A・B層を42%に引き上げる。◇第2学年は、理科については、【主体的に学習に取り組む態度】の観点別正答率を3P上げ、全国平均正答率値に到達させる。そのために、【生命】【地球】の領域での（火山）（地層）（植物の分類）の内容について振り返りシート・単元末テストのやり直しを宿題等での取り組みをする。また、E層をなくしD層を30%台に止めC層へ5人引き上げC層を20%以上とする。◇第3学年は、【知識・技能】及び【主体的に学習に取り組む態度】の観点別正答率を引き上げるため「地球」「粒子」の領域の（物質の成り立ち）（化学変化）（気象の観察）の内容容について振り返りシート・単元末テストのやり直しを宿題等での取り組みをする。また、E層をなくしD層を40%台に止めC層へ12人引き上げ、C層を20%以上とする。さらにB層からA層に5人引き上げA・B層40%以上にしいく。